

会報KANASA(金砂)・30年の軌跡

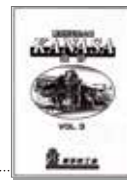
創刊号～10号



VOL.1 創刊号 平成5年9月25日発行
B5版/12頁 発行部数:500部
会員への情報発信を目的に創刊。手探り状態の中、500部の発行でスタート。笹淵茂氏(S21Y/故人)のエッセイが好評で、会員の皆さんの反応は概ね良好。



VOL.2 平成6年8月15日発行
B5版/16頁 発行部数:800部
この年は母校創立90周年。(関連記事はVOL.3に掲載)俳優の森幹太氏(S16S/故人)を取材した記事などを掲載。他2件の寄稿があり16ページに増。



VOL.3 平成7年10月25日発行
B5版/16頁 発行部数:1,200部
体操の遠藤幸雄氏(S30E/故人)の寄稿などを掲載。この年度に、斎藤右二郎氏(S26M/故人)から三平俊悦氏(S39A/前会長)へ幹事長バトンタッチ。



VOL.4 平成8年10月1日発行
B5版/20頁 発行部数:1,200部
会員の寄稿を増やしたことで、20ページに増。この号より物故者のお知らせと東京秋工役員の一覧を掲載。



VOL.5 平成9年10月10日発行
B5版/20頁 発行部数:1,000部
一般会員からの寄稿が少なく、役員主体の記事掲載となった。併せて予算的な都合により発行数を1,000部に調整。



VOL.6 平成10年9月15日発行
B5版/20頁 発行部数:1,000部
広く寄稿を依頼。母校ラグビー部監督(当時)黒澤光弘氏(S55M/前秋工校長)、河正雄氏(S34M)よりの寄稿記事などを掲載。



VOL.7 平成11年10月5日発行
B5版/16頁 発行部数:1,000部
寄稿が少なく、16ページに減。この年、母校創立95周年、同窓会館開館10周年の記念式典が母校で開催された。



VOL.8 平成12年10月1日発行
B5版/20頁 発行部数:2,000部
増ページ、部数増により、送付数も増やしての発行を実施。同時に区切りの10号に向けて、会報のあり方についての検討を開始。



VOL.9 平成13年9月1日発行
B5版/16頁 発行部数:2,000部
前号に続いて送付数を増やしての発行を実施。節目の10号に向けた伏線の意味を持つ号。会報の送付と共に、アンケートを送付し実施。

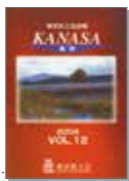


VOL.10 平成14年8月1日発行
A4版/44頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
創刊10周年記念号。表紙をカラー化、A4版に変更。内容の充実化を前提に、加賀谷健治氏(S36E)を編集長とする編集委員会体制での会報制作を開始。

11号～20号



VOL.11 平成15年7月10日発行
A4版/36頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
編集委員会体制実質的始動での制作第1号。ラグビー部OB土田雅人氏へのインタビュー記事、還暦を迎えた方からの寄稿などを掲載。



VOL.12 平成16年8月7日発行
A4版/40頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
秋工創立100周年の年。(関連記事はVOL.13に掲載)秋工陸上競技部監督(当時)の大友貴弘氏の記事他、還暦・喜寿・古希の方からの寄稿などを掲載。



VOL.13 平成17年8月7日発行
A4版/44頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
ラグビー部OB吉田義人氏インタビュー記事、秋工マーチングに関する野上弘氏(吹奏楽部顧問)の寄稿などを掲載。この年より当会ホームページスタート。



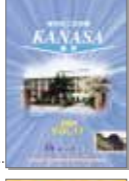
VOL.14 平成18年8月5日発行
A4版/44頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
ラグビー部創部80周年に関する特集記事、箱根駅伝で活躍の村上和春氏(H36C)のインタビュー記事他、パリエーションに富んだ記事が掲載された号。



VOL.15 平成19年8月12日発行
A4版/44頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
この号より、表4(裏表紙)表3(裏表紙裏)カラー広告を募集し掲載。掲載記事については11号以降順調に内容の充実が図られている。



VOL.16 平成20年8月9日発行
A4版/44頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
澤木誠一会長(S26E)が退任し、三平俊悦氏(S39A)が会長に就任。この号より真ん中の4ページをカラー表紙の広告及び特集記事の場とした。



VOL.17 平成21年8月8日発行
A4版/44頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
創刊以来の連載、笹淵茂氏(S21Y/故人)のエッセイがこの号で終了。会に貢献いただいた、体操の遠藤幸雄氏(S30E/故人)の逝去を悼む記事などを掲載。



VOL.18 平成22年8月7日発行
A4版/52頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
東京秋工会発足70周年記念号。小野鐵雄氏(S38C)による本年が70周年であることに関する寄稿、また同窓関連、関係各会からの祝辞などを掲載。

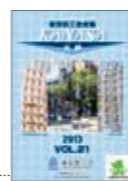


VOL.19 平成23年8月6日発行
A4版/48頁(表紙含む) 発行部数:2,000部
17号から連載の、地主勝己氏(S37C/故人)の「私の秋田弁ライフ」が好評。スラジル・サンパウロ在任、伊藤武氏(S36E)の寄稿を掲載。東日本大震災はこの年の3月。



VOL.20 平成24年8月10日発行
A4版/56頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
創刊20周年記念号。この号より紙面をオールカラーに。会員他、本部・支部同窓会及び秋高連、けやき会等への配布などにより発行数を2,500部に増。

21号～30号



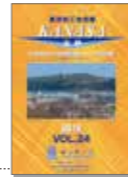
VOL.21 平成25年8月3日発行
A4版/52頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
嵯峨良平氏(S43E)が編集長となつての初号。同窓情報発信コーナータロンベなどを新設。同窓訪問記、時代に足跡を記した大先輩、などの掲載を開始。



VOL.22 平成26年8月9日発行
A4版/52頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
秋工創立110周年の年。関連記事として秋工の歴史の分かる年表形式の記事他、17年ぶりの早大ラガーとなった加藤広人氏(H26M)の紹介記事などを掲載。



VOL.23 平成27年8月8日発行
A4版/52頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
東京秋工会75周年。昭和26年卒の方は秋工に6年通ったという。なぜそういうことになったのかなどについて、加賀谷健治氏(S36E)が調べた記事を掲載。



VOL.24 平成28年8月20日発行
A4版/56頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
春・夏連続で甲子園に出場した昭和39年度野球部主将、横山通氏(S40C)の寄稿文、直木賞作家・千葉治平氏(S15E/故人)の紹介記事などを掲載。



VOL.25 平成29年9月2日発行
A4版/56頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
この年の春に実施した、会員意識調査アンケートの結果、写真家の桜庭文男氏(S41E)の作品、大島鍊三氏(S29K)の会員寄稿などを掲載。



VOL.26 平成30年8月18日発行
A4版/60頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
特別寄稿として秋工同窓会静岡支部・佐々木健男氏(S31M)よりの寄稿を掲載。好評だった地主勝己氏(S37C/故人)の「私の秋田弁ライフ」は、この号が最後。



VOL.27 令和元年8月17日発行
A4版/60頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
新たな活動として始まった地区別<金砂健児のつどい>の実施報告を掲載。傾向として定番・連載の記事が増え、内容的ボリュームが増した。



VOL.28 令和2年8月17日発行
A4版/60頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
東京秋工会発足80周年。三平俊悦会長(S39A)が退任し、佐々木進氏(S40S)が会長に就任。コロナ禍により、この年度は総会<金砂健児のつどい>を中止。



VOL.29 令和3年10月16日発行
A4版/40頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
前年度に続き、コロナ禍により総会<金砂健児のつどい>が中止。同好会、母校応援などの活動が制限された関係で報告の掲載ができず、ページ数減。



VOL.30 令和4年5月21日発行
A4版/46頁(表紙含む) 発行部数:2,500部
創刊30周年記念号。本年度の総会<金砂健児のつどい>を7月に開催するため、例年より早い5月の発行。この号より無線綴じの製本方式に変更

会報KANASA(金砂)の今後

東京秋工会会報KANASAの創刊号から今30号までを表紙の画像を入れて列挙、よくここまで続けて来られた・・・と思う。

しかしながら、これは東京秋工会に限ったことではないが、近年は同窓会に参加する若手が少ない、いない、どうしたらいいのかわ・・・ということが大きな課題になっていて、そんな現状の中において会報の制作を担い、継続してくれる後継者ははたして現れてくれるのだろうか?と心配している。

本音で思うところを言わせていただければ、今のままでは次の区切りの40号を迎えることはできないかもしれない。会報の継続云々以前に東京秋工会の存続さえ危ういといえるのだから。もちろん会としてはさまざまな試行錯誤し努力をしている。若手の会への参加・増加に関する問題は、役員会における毎回の議題だ。

また近年はインターネット利用による情報通信手段、ホームページあるいはフェイスブック、ラインといったSNS系メディアなどが発達し、印刷(紙)媒体での情報発信は時代遅れとされる。そういう面で見ても、紙媒体である会報KANASAが消えていくのはいたしかたのないことなのかもしれない。ただこれまで会報に込めてきた思いは消したくない。別な手段となっても構わない。会報KANASAに込めて来た思いを理解し、東京秋工会の発展・継続・存続のための仲間となってくれる若手(特に40～50代)の参加、出現を切に望む。

● 記事寄稿者

松木 一美 (昭和48年機械科卒)

頑張ろう! 東北 フレーフレー! 秋工!

◆ 総合フードサービス事業 ◆

テンジユ株式会社

代表取締役 大塚 廉造 (K・32卒)
相談役 大塚 洋夫 (E・35卒)

東京都中央区新川2丁目7番7号クレール八重洲ビル204
TEL (03)3297-1066 FAX (03)3297-1063

※ 会報KANASA(金砂)のバックナンバーは、当会HPでご覧いただけます。